

# 大津歴博だより

## 第144回ミニ企画展

# 平成29年度 新収蔵品展

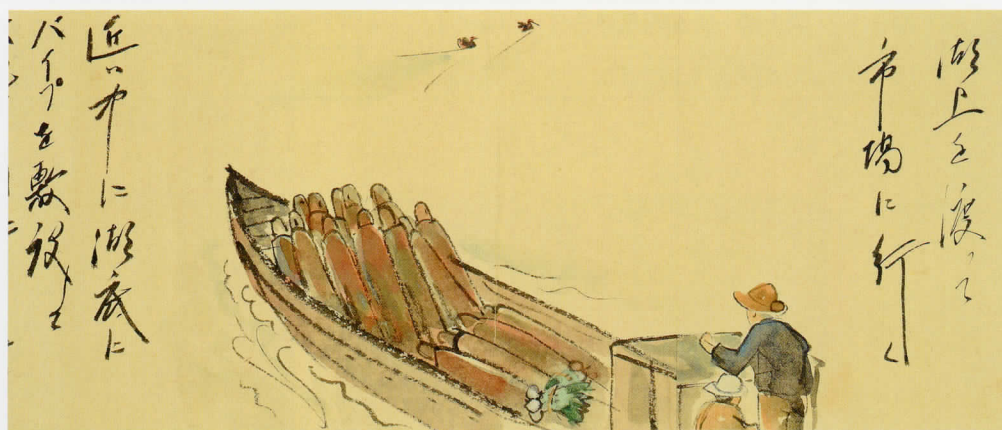
平成30年5月22日(火)～6月17日(日)

【休館日・月曜日、6月12日～14日】



購入1 保永堂板 近江八景之内 瀬田夕照 歌|広重画

歌|広重(1797-1858)の傑作とされる〈保永堂 栄久堂板〉近江八景のうち瀬田夕照



購入4 琵琶湖天然瓦斯縁起

琵琶湖天然瓦斯株式会社の縁起絵巻。戦中から昭和30年頃まで行なわれた、琵琶湖周辺の天然ガス採掘がわかる。写真は天然ガスが詰まったボンベが湖上を運ばれる様子。

## 平成29年度 新収蔵品展

会期 5月22日(火)～6月17日(日)  
【休館日 月曜日、6月12日～14日】

歴史博物館では、大津や滋賀にかかわる様々な資料を継続的に収集しています。平成29年度は、購入4件、受贈10件のあわせて14件の資料が新たに加わりました。

歌川広重の浮世絵「近江八景」の瀬田夕照や、琵琶湖天然瓦斯縁起、また大津百町や堅田に関わる古文書、さらには戦時資料や浜大津 大津駅風景を映した8ミリフィルムなど、大津の歴史と文化を語るうえで、大変貴重な資料ばかりです。ミニ企画展では、これら新たに加わった新収蔵品を一堂に展示します。

## 購 入

|   |                        |      |      |
|---|------------------------|------|------|
| 1 | 保永堂板 近江八景之内 瀬田夕照 歌川広重画 | 1 枚  | 江戸時代 |
| 2 | 木屋仙右衛門家文書              | 93 点 | 江戸時代 |
| 3 | 居初家旧蔵文書                | 68 点 | 江戸時代 |
| 4 | 琵琶湖天然瓦斯縁起              | 1 巻  | 昭和時代 |

## 受 贈

|    |                   |      |         |
|----|-------------------|------|---------|
| 1  | 近江八景柄鏡 松岡豊前守藤原政重造 | 1 本  | 江戸時代    |
| 2  | 目片六左衛門家文書         | 括    | 江戸～明治時代 |
| 3  | 片岡伝四郎家文書          | 括    | 江戸～昭和時代 |
| 4  | 膳所藩砲術方松原家資料       | 18 点 | 江戸時代    |
| 5  | 大津市三共義勇消防団団旗      | 式    | 昭和時代    |
| 6  | 吉田氏戦時資料           | 4 点  | 昭和時代    |
| 7  | 三品氏日の丸寄せ書き        | 1 枚  | 昭和時代    |
| 8  | 緑ヶ丘球場写真           | 1 枚  | 昭和時代    |
| 9  | 浜大津 大津駅風景8ミリフィルム  | 1 本  | 昭和時代    |
| 10 | 大津祭龍門滝山模型         | 1 基  | 近代      |

※個々の資料は、当館ホームページでも詳しく紹介しています。



購入2 木屋仙右衛門家文書

「木屋」の屋号を用いた池田家に伝来した文書群。商家の活動や幕府や寺院との関係、材木流通に関する文書からなる。



購入3 居初家旧蔵文書

堅田藩堀田家の書状が中心で 近世後期の堀田家と居初家をめぐる関係性が浮かび上がる資料。





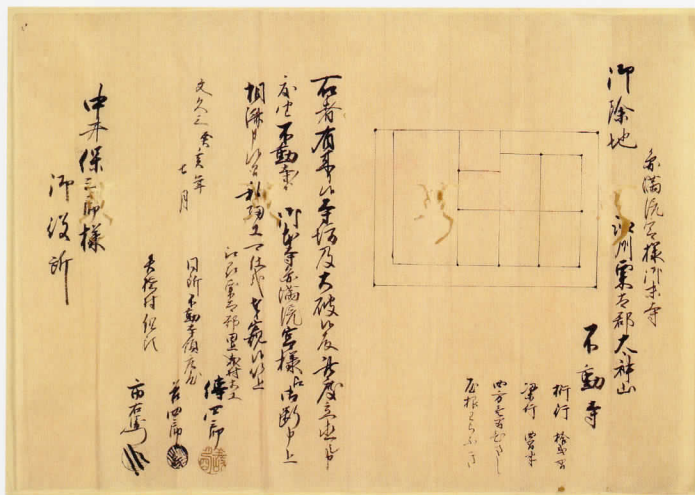
受贈 1 近江八景柄鏡

鏡面裏に比良暮雪 堅田落雁 唐崎夜雨 石山秋月が陽鍍される。  
銘は「松岡豊前守藤原政重」。18世紀の小ぶりの携行用柄鏡。



受贈 2 目片六左衛門家文書

大津市北大路の目片六左衛門家に伝来した文書群。家経営や北大路の御霊神社に関する文書群で構成される。



受贈 3 片岡伝四郎家文書のうち

大津市田上森町の宮大工片岡家伝来の文書群。幕府大工頭中井家に提出した図面などで構成される。



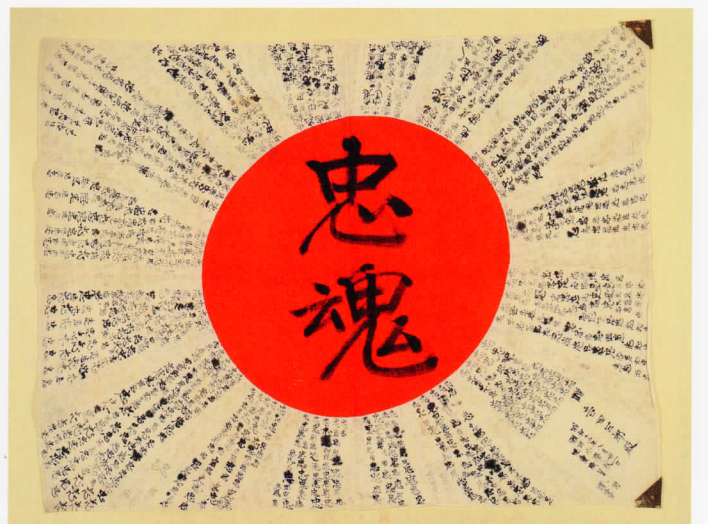
受贈 4 膳所藩砲術方松原家資料

膳所藩の砲術方 松原家に伝わった資料。江戸時代後期の由緒書や藩主からの知行宛行状など。



受贈 5 大津市三共義勇消防団団旗

戦時中 アメリカ軍による空襲に備えて大津市内で結成された消防団の一つと思われる団旗や旗竿。



受贈 6 吉田氏戦時資料のうち日の丸寄せ書き

「忠魂」「祈武運長久」と各々書かれた日の丸の寄せ書き 2 枚の他、戦地で使用した飯盒や水筒からなる。



# 大石の山の神

会期 平成30年6月19日(火)～7月16日(月・祝)  
【休館日 月曜日(7/16を除く)】

文化2年(1805)12月に作成された「大石七ヶ村<sup>たち ぬい</sup>立会惣絵図」と題する大きな絵図が残されています。作られた経緯は定かではありませんが、膳所藩の命令で作成されたもので「田畑山林宮森山神二至迄」を書き上げた絵図です。注目されるのは、山の神の祭場が描かれていることで、江戸時代後期、大石の各村の山の神の場所が確認できます。

一般に山の神など、素朴な民俗信仰に関わる神々の祭場は、小さな祠であつたり石や神木だつたりと、シンプルなものです。古くから祀られていたであろうことは想像されますが、記録や古絵図に記されることはまれで、この立会惣絵図は、貴重な記録といえます。

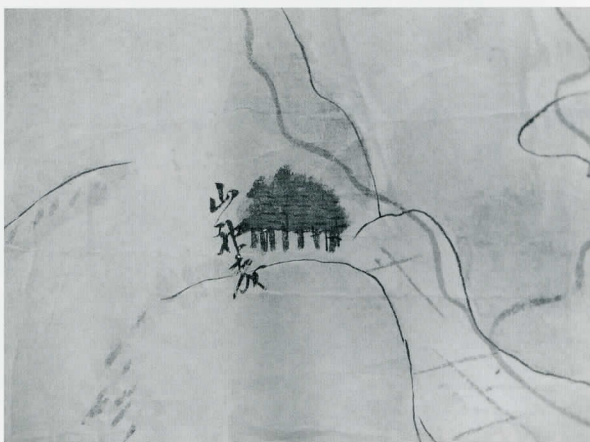


かつて山は燃料等の供給地であり、農村にとって不可欠な存在でした。冬場、木の葉掻きやたきざりなど、身近な山に入つて活動することが普通でした。ただ、山は平地と違って、安全な場所とはいえません。獣も居れば、山道で迷うこともあり、きつねに化かされた話は、ついこの間まで語られていたことです。山は異界であり、神の坐す場と認識されていました。こうした山での安全を祈り山の神を祀ることが、盛んにおこなわれており、その伝統は、今も市内各地に受け継がれています。



大石地区もかつて山仕事で盛んな土地でしたから、各地に山の神が祀られ、今も行事が続けられています。口に山の神といっても、集落ごとでその様子は少しずつ異なります。ここでは、大石淀町の山の神を紹介します。

正月3日朝、集落の裏山にある山の神の祠に男性が集まってきました。この前の平地に、各々が柴でクラタテを行います。地面を掘つて、石を取り出し、枝で屋根型を作り、棟木を渡し、紙のこよりで結びます。地面に半紙を敷いて供え物や石を置き、樫の枝を立て、鍵状の枝を棟木にひっかけて鍵を掛けます。そして祠に参拝し、近くで火を焚いて持参した餅を焼き、御神酒をいただきます。新たな年が豊かであるように祈る素朴な行事です。



文化2年「大石七ヶ村立会惣絵図」に描かれた淀の「山神森」

クラタテは、この周辺では大石淀町にのみ見られます。ただ、奈良市の東部、東山中と呼ばれる地域の山の神行事でも見られます。なぜ大石淀にのみ伝わっているのか謎ですが、山の神は地域毎で様々な祀られ方をしています。今回のミニ企画展では、近世の絵図と見比べながら、大石の山の神を紹介します。



# 紀樸亭 ほのぼの文人画ワールド

会期 平成30年7月18日(水)～8月26日(日)

【休館日 月曜日】

江戸時代、今から230年前の天明8年(1788)、ユニークな画家が大津に移住してきました。その名は紀樸亭(1734～1810)。名前を見て、まず、どう読むのだろうか、と頭をひねってしまうのが自然でしょう。紀樸亭=きばいてい、と読むのですが、ほとんどの方々にとっては耳慣れない画家名でしょう。しかし、彼の作品は少なからず海外の美術館や個人コレクターにも収蔵されているのです。

それもそのはず、彼は、江戸時代の18世紀に、俳諧中興の立役者として詩的な発句で名声の高い与謝蕪村<sup>よさぶそん</sup>の弟子なのです。蕪村は、当時、新風をもたらしていた絵画スタイルであった文人画の確立者としても著名でした。樸亭も、蕪村風でありながら、彼の人間味がさらに加わった文人画作品を描き、人々に愛されていたことが、大津に残された多くの作品から判明します。

樸亭は、もともと京都で活動していたものの、天明の京都大火(1788)で罹災して、現在の菱屋町商店街近く(長等2丁目)に身を寄せ、亡くなるまでの20年あまりを大津で過ごしました。京都時代は、文人画家としての気負いもあってか蕪村風や中国風の山水図をもっぱら描いていましたが、移住後は、商都大津に立ち並ぶ米商や両替商らが後援者となり、縁起の良い吉祥画や、のどかな山水画、そして軽妙な俳画を描いて好評を博したようです。湖南の穏やかな風光や、気さくでありながら文芸もたしなむ人々たちとの交遊が、彼の作風にも影響を与えたのでしょう。特に、彼の人物・動物表現は、現代日本の漫画にも通じるコミカルな表情やくだけた造形をみせる点で、現代的な面白さと斬新さを感じさせる絵画です。

とりわけ、彼の吉祥画・縁起物作品は、えもいわれぬ、にこやかな表情をたたえていて、見る者に幸福をもたらすかのようです。今日まで残る数も多く、樸亭の当時の人気ぶりが窺われます。そして、そのような作風は彼の俳句においても同様でした。彼の俳句が、日常生活のひとコマやさりげない気持ちを描写してとても親しみが湧く俳風なので、最後に、いくつか紹介しておきましょう。

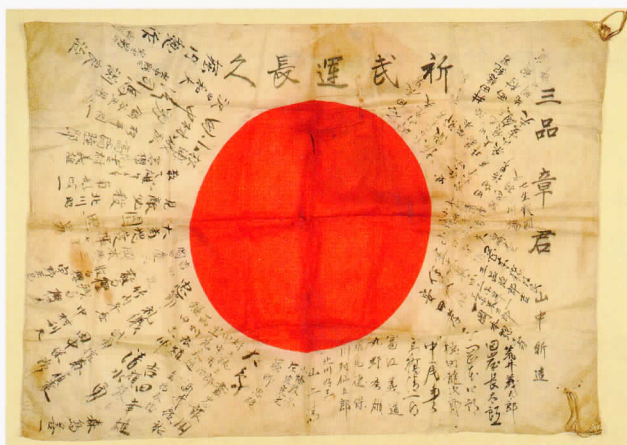
同じ雪 京と大津や 裏表  
杓も取らず 雪をつまんで 手洗いせん  
上着ひとつ 着替えてこけん 今朝の雪  
ハ声なる 船行違ふ 雪の暮  
鹿の寝た 跡は霜なき 落葉哉  
くさぐさと どこえも這入 雪のつへ  
「紀樸亭書状貼上屏風」から抜粋。

本展では、上記のような樸亭のほのぼのワールドな作品を中心に、まじめな文人画もまじえた樸亭画の世界を紹介します。



飲中八仙図(部分) 紀樸亭 個人蔵 本館寄託





受贈7 品氏日の丸寄せ書き

寄せ書きには名前だけではなく 大商魂發揮セヨ「見敵必殺」  
「散る桜、残る桜も散る桜」の言葉も。



受贈8 緑ヶ丘球場写真

昭和2年7月に京阪電鉄が設置した球場。昭和17年頃には、食糧増産のために芋畑へと姿を変えた。写真は、昭和11年頃の全国中等学校野球大会の京津大会の開会式。



受贈9 浜大津 大津駅風景8ミリフィルム

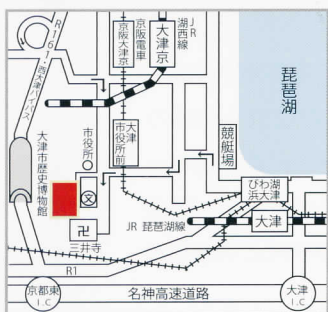
昭和43年9月から10月にかけて寄贈者が撮影した8ミリフィルム。  
国鉄が浜大津―膳所駅間で行っていた、蒸気機関車による貨物輸送の様子と  
におの浜で開催されていた「びわこ大博覧会」のための臨時快速電車「近江路」  
号が、大津駅を出発する様子が記録されている。



受贈10 大津祭龍門滝山模型

龍門滝山の曳山模型。観賞用として実見しないまま製作されたものと思われる。

## ご利用案内



### 交通機関

京阪電鉄石坂本線「大津市役所前(別所)」駅  
下車 徒歩約5分  
JR 湖西線「大津京」駅下車 徒歩約15分

### 駐車場 約70台(無料)

### ■常設展示観覧料

| 区分      | 個人   | 団体(15名以上) |
|---------|------|-----------|
| 一般      | 320円 | 250円      |
| 高校生 大学生 | 240円 | 190円      |
| 小学生 中学生 | 160円 | 120円      |

- ◆大津市内在住の65歳以上の方は一般料金の半額。
- ◆市内在住の障がい者の方、市内在住の介護保険の要介護者の方 要支援者の方は無料  
(証明するものをご提示ください)。
- ◆ミニ企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

### ■開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

### ■休館日

月曜日(祝日 振替休日の場合は開館し、翌日が休館)  
祝日の翌日(土 日曜日の場合は開館)  
年末年始(12月27日～1月5日) 館内点検(6月中旬)  
その他、業務の都合により休館する場合があります

### —— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧会を自由にご観覧いただける  
定期観覧券です また、当館発行の出版物や  
催し物の割引 様々な情報のご案内など、多  
くの特典を設けております (1年間有効)

| 料金 | 一般     | 高大学    | 小中学    |
|----|--------|--------|--------|
|    | 2,000円 | 1,500円 | 1,000円 |

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



## 大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号  
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666  
<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>

大津歴博だより No.110 平成30年5月10日